

## どう生きるかを考える

大槻 奈巳

キャリアという言葉の意味が広がっている。従来は「個人が一生のうちにたどる職業上の経歴」として用いられていたが、職業だけでなく社会活動を含めて個人の活動の連鎖とする考えまで広がってきた。出産や夫の転勤などで職業キャリアを中断することがある女性のキャリアをよりとらえており、職業を中断しない男女にとっても、社会活動も自分を成長させていく重要な機会との認識が広がることは望ましい。筆者らが行った調査では、職業活動と社会活動は互いがよい影響を与え合い、この連鎖を築くことはより豊かな人生をもたらしていた。

人生100年時代といわれて久しいが、職業活動や社会活動を通して、自分を成長させ、行きたい方向に自分をもっていく力が必要だろう。この力を筆者は「切り拓く力」とよんでいる。行きたい方向に進むには、自分がこうしたいだけでなく、社会の構造や自分にどんな資源があるかを知り、何が障害かを見極めることが大切だ。自分の資源—家族や友人、情報源や資金の手当先など—を考え、必要な資源を得て、障害を乗り越え、行きたい方向に進む。このとき、重要なのは「前提を疑う」ことである。時間やお金がないから、力不足だからなどの前提を問い直し、「ないからできないではなく、こうすればできる」を考えよう。

そして、なにより重要なのは、「どう生きるか」である。筆者が、以前企業に学生の就職活動についてヒアリングした際、担当者が「自分がどんな人間で、どう生きるかが重要で、その延長に就職活動がある」と述べていた。確かにそうだと思いつつ、自分自身もどう生きるか考えていないと気がついた。ある年齢になるとどう生きるかを考えることなく、日々をこなすだけになっていないか。

人生の指針となる、「どう生きるか」を今一度考えることが大切ではないか。何歳からでも、いつからでも考えることができ、すべての出発点でもある。そして、「どう生きるか」のヒントとして他の人々の生き方や価値観があり、学習があるのだろう。



### PROFILE

おおつきなみ：聖心女子大学現代教養学部人間関係学科教授、キャリアセンター長。専門は労働とジェンダー、女性のキャリア形成。著書に『職務格差—女性の活躍推進を阻む要因はなにか』（勁草書房、2015）、『なぜ女性管理職は少ないのか』（大沢真知子らと共著、青弓社、2019）、『大学生のためのキャリアデザイン入門』（岩上真珠との共編著、有斐閣、2014）など。